

令和6年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和7年2月3日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題
	(★学校関係者評価を受けて)							
明確な目標をもち、目標達成への過程をより重視する。た教育活動をより重視する。	目標をもって行動する生徒の育成	生徒一人一人が明確な目標をもち、目標達成への見通しがもてるよう指導し、節目となる場面では活動の振り返りを行い、次の活動にいかす。	A	A	授業や活動において、前時のふり返りの場面を設定し、学習課題を確認させた。家庭学習の支援としては、授業進度を示すことで計画的に取り組めるようにした。	A	どの学年の生徒もとても落ち着いていて、意欲的に授業に取り組んでいる。先生たちがICTを活用して工夫した授業が行われ楽しく取り組む様子が見られた。	教育活動の振り返りを確実に行うことで、目標が確実に達成できたか、その手立ては適切であったかを検証し、次につなげる必要がある。それが生徒の主体性につながる。
	学校教育活動への参画意識向上	協働意識や達成感・自己有用感の感得を目指すための、個への働きかけや機会・場の設定を工夫する。	A					
相手を思いやる心を育てる。尊重し、大切にすること。	道徳教育の推進	他者の考え方や意見を尊重するとともに、思いやりの心をもって人と接する心情を育てる。	A	A	日常の学校生活や行事動において、相手を思やり、協力して物事に取り組む生徒が増えた生徒、保護者ともに温かい人間関係を肯定的にとらえていることがアンケートからわかった。	A	どの学年の生徒も先生の話や友達の意見をよく聞いています。吉中生は、いつも明るい挨拶ができ、素直な態度で応対してくれて気持ちがよい。	生活サポートについて、ふれあいルームの活用は本校に向けて、さらに細かく事例を検証する必要がある。
	自らの思いを「伝え合う」力の育成	「吉中おはなしタイム」で発表する力、聞く力を育てるとともに、相手を肯定的に受け止める姿勢を養う。	A					
	生活サポートの充実	不登校傾向にある生徒の様子をすばやくキャッチし早期に対応する。	A					
学習活動を展開する。問題解決する。決めたことを仲間と共有する。	学習系統を踏まえた総合的な学習	既習事項、身についた学習スキルを踏まえた学習活動を展開する。	B	A	課題解決的な授業を開けている教科が多くなく、学習に対して受動的な生徒が多かった。そのため学習の基礎・基本の定着にも不十分な生徒が多い。学習規律の徹底にも、統一感がなかった。	A	知り合いの中学生は家では全然勉強をしないとよく言っている。保護者の学校任せもさることながら、本人の意欲低下が心配される。	「個別最適な学び」「協働的な学び」をさらに熟慮し、授業に落とし込む必要がある。一方で学習の基礎理解の定着も図る必要がある。
	問題解決的な単元構想・授業展開の構築	問題解決的な授業実践を積み上げ、吉田方スタイルの授業の構築を目指す。	A					
姿勢避め災をし危減養よ險災う。うをのと事意す前識るにを	危機管理意識向上	学級指導、講演、避難訓練等の機会を関連づけながら、危機対応の指導を重ね危機発生時に備える。	A	A	地震・津波の避難訓練をより現実に近い形を想定して行ったことで、生徒の自然災害への対応意識は高まったことが、アンケートからわかった。	A	校区防災訓練に多くの生徒がボランティアとして参加してくれて大変感謝している。地域安全環境美化パレードへの参加もありがたい。	自然災害への対応のみならず、教職員のアナフィラキシーショック等の、緊急時への対応力を進めていく必要がある。
	感染症・アレルギーへの対応力	正しい知識と対処法を理解し、危機回避に努めるとともに、緊急時の対処法を身につけさせる。	A					
の効率化をはかる。J.T.の推進によるミドルリーダーを軸とした研修・作業O	OJTの推進	ミドルリーダーを中心に、学校・学年分掌におけるOJTを若手職員に対し実践する。	A	A	現職研修に主任を置き、中堅教員が研修計画を立てている。教務主任と連携して今日的な課題に取り組むことができた。学期に1日の定時退校日をテスト週間の金曜日に設定し、教職員が進んで退校できるよう意識改革をはかった。	B	先生がたが日々いろいろなことに取り組んでくれているおかげで、落ち着いた生徒が多い印象をうけた。	教師の授業力向上に向け、現職研修をさらなる活性化することが喫緊の課題である。時間外勤務については、タイムマネジメント力も課題としていく必要がある。
	ライフワークバランスの意識	心身の健康保持、家庭と勤務との両立などの重視をよびかけ、計画的に各種休暇を取得できるよう配慮する。	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】